

# 静岡県経済産業ビジョン【森林・林業編】

## 静岡県森林共生基本計画



経済産業部森林・林業局  
くらし・環境部環境局

平成30(2018)年3月



# 第3章 基本方向と施策

## 【施策体系図】

### 目指す姿

「経済」「社会」「環境」が調和した多様性のある森林づくり

森林資源の利用と保全の両立による、美しく恵み豊かな魅力あふれる  
「森林の都」しずおかを創造し、未来に引き継ぐ。

### 基本方向

#### 1 森林資源の循環利用による 林業の成長産業化

《森林資源の循環利用による  
「森林との共生」》

#### 2 森林の多面的機能の維持・ 増進

《森林の適正な整備・保全による  
「森林との共生」》

#### 3 県民総参加による持続的で 魅力的な森づくり活動の推進

《森に親しみ、協働で進める  
「森林との共生」》

### 施策

#### (1) 県産材の安定供給体制の確立

- ① 低コスト生産システムの定着
- ② 主伐と再造林の促進
- ③ 県産材の流通の最適化
- ④ 森林認証材の安定供給

#### (2) ビジネス林業の定着

- ① 林業経営体の経営改革
- ② 森林技術者の育成・確保

#### (3) 県産材製品の需要拡大

- ① 品質の確かな県産材製品の利用拡大
- ② 県産材製品の販路拡大
- ③ 県産材の製材・加工体制の拡充

#### (1) 森林の適正な整備

- ① 間伐などの森林整備の促進

#### (2) 森林の適正な保全

- ① 森林の公益的機能の回復
- ② 森林の公益的機能の向上
- ③ 自然環境の保全

#### (3) 魅力と強みを活かした山村づくり

- ① 特産林産物の安定供給と消費拡大
- ② 都市と山村の交流

#### (1) 県民の理解と参加の促進

- ① 県民の理解の促進
- ② 県民参加による森づくりの推進
- ③ 森づくり活動や環境教育を行う人材等の養成及び確保
- ④ 森林経営管理の合意形成

## (2) ビジネス林業の定着

### 《現状・課題》

- ① 林業経営体
  - ・木材生産における労働生産性は、向上しつつあるものの平成 28 年度時点で 3.8 m<sup>3</sup>/人日に留まっています。また、死傷災害は、県内で年間 40 件以上発生しています。
- ② 森林技術者
  - ・林業作業員数は、近年、横ばいで推移していますが、60 歳以上の割合が 4 割近くを占めています。
  - ・森林経営計画に基づいて伐倒・搬出などの木材生産を行うことができる森林技術者（林業作業士相当）は、年間 50 万 m<sup>3</sup>の生産に要する最低限の人数を確保していますが、今後、退職などによる人手不足が見込まれます。

### 《取組の方向》

- ① 林業経営体
  - ・労働安全、労働生産性、就労環境の向上など、林業経営体の経営改革を支援します。
- ② 森林技術者
  - ・林業への新規就業の促進、森林技術者の能力向上により、森林技術者の育成・確保を図ります。

### 《数値目標》

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
活動指標	木材生産の労働生産性	(2016 年度) 3.8m <sup>3</sup> /人日	(2021 年度) 5.6m <sup>3</sup> /人日	○

### 《主な取組》

#### ① 林業経営体の経営改革

##### ア 林業労働安全の向上

- ・林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部と連携し、安全パトロールや安全講習会の実施などにより、安全対策の徹底と安全装備の導入を促進します。
- ・静岡県林業労働力確保支援センター、静岡県森林組合連合会及び林災防静岡県支部が行う、伐木造材における安全技術の習得などの研修会を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業労働安全の向上		安全パトロールや安全講習会の実施		→
		伐木造材における安全技術の習得などの研修会を支援		→

##### イ 労働生産性の向上

- ・ビジネス林業を目指す林業経営体に対し、経営資源の最適化に向けた課題の整理と

解決への取組を支援します。

- ・ ビジネス林業に取り組んでいる林業経営体に対し、更なる生産性の向上に向けたステップアップを支援します。
- ・ 林業経営体に対し、車両系（ハーベスタ又はプロセッサとフォワーダ）や架線系（タワーヤーダとプロセッサ）の生産システムを、森林の立地条件に応じて適切に選択するよう促します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
労働生産性の向上	ビジネス林業の定着を図る事業体数(累計)			
	27事業体	38事業体	49事業体	60事業体

## ウ 就労環境の向上

- ・ 改善計画の認定を通じて、林業経営体の雇用環境などの向上の取組を支援します。
- ・ 林業経営体の社会保障の充実や労働安全の向上に対する取組を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
就労環境の向上	林業経営体の雇用環境改善の取組を支援			

## ② 森林技術者の育成・確保

### ア 林業への新規就業の促進

- ・ 静岡県林業労働力確保支援センターと連携し、林業の仕事の内容や就業条件などを情報提供するガイダンスや、林業体験会を開催します。
- ・ 林業経営体に対し、就業を希望する者の試用雇用を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業への新規就業の促進	静岡県林業労働力確保支援センターの支援			
	100人	林業への新規就業者数 100人	100人	100人

### イ 農林大学校における人材の育成

- ・ 森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と持続的な林業経営に貢献できる人材を育成します。
- ・ 農林大学校学生に対し、林業への就業に向けた研修の費用を支援します。
- ・ 農林大学校を、森林・林業に関する幅広い専門的な知識と理論に裏付けられた高度な実践力、課題対応能力を有する人材を育成する専門職大学に移行します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
農林大学校における人材の育成	専門職大学への移行準備		専門職大学の開学	

## ウ 森林技術者などの能力向上

- ・ 木材生産などの林業技術を指導できる人材を育成します。
- ・ 技術者の林業技術と現場管理能力の習得を指導する全国森林組合連合会の県内での取組を支援します。
- ・ 林業経営体の職員に対し、森林GISやオープンデータの活用と、効率的な木材生産に必要な計画の作成を支援します（森林施業プランナー）。
- ・ 丈夫で簡易な路網を作設できるオペレーターや設計ができる技術者を育成します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
森林技術者などの能力向上		林業技術・知識の習得を支援		
	500人	500人	500人	500人

1 要 旨

県立農林大学校の専門職大学への移行にあたり、理念や養成人材など根幹となる部分を議論するため、外部有識者等による基本構想策定委員会を4回開催し、平成30年2月5日に専門職大学基本構想を策定した。

2 開催実績

	開催日	議事
第1回	平成29年5月1日	・委員会設置趣旨及びスケジュール ・専門職大学の方向性について
第2回	平成29年8月31日	・農林大学校視察 ・基本理念、養成人材、学部学科、入学定員
第3回	平成29年10月2日	・農林業の担い手像 ・担い手に求められる能力 ・教育内容の概要
第4回	平成29年12月27日	・基本構想案について

3 基本構想の策定・公表

日時	実施事項
平成30年1月16日～2月4日	パブリックコメントの実施
2月5日	専門職大学（農林業）基本構想の策定
2月14日	専門職大学（農林業）基本構想の公表

《参考》専門職大学基本構想策定委員会委員名簿 (敬称略・50音順)

職名	氏名	現職
会長	生源寺 眞一	福島大学農学系教育研究組織設置準備室長 教授
委員	新井 映子	静岡県立大学食品栄養科学部教授
〃	片野 恵介	青年農業士（畜産）
〃	木宮 健二	学校法人常葉大学理事長
〃	鈴木 厚志	静岡県農業法人協会会長・農業経営士（施設園芸）
〃	竹川 暢昭	静岡県農業高等学校校長会会長（静岡農業高校校長）
〃	竹川 将樹	指導林家
〃	塚本 佳子	農業経営士（露地野菜）
〃	益田 昌史	国土経営研究会会長
〃	陽 捷行	（公財）農業・環境・健康研究所農業大学校校長
〃	吉林 章仁	静岡県副知事
〃	難波 喬司	静岡県副知事
〃	竹内 隆	静岡県農林技術研究所研究統括監

# 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査について(報告)

平成 29 年 9 月

経済産業部農業局農業ビジネス課

## 1. 調査目的と方法

本アンケート調査は、県内の農林業法人を対象に、経営及び雇用の現状や、今後の方向性をたずね、専門職大学（専門職短期大学）の学部・学科や、教育内容の検討を行う基礎資料とすることを目的としている。

調査概要は表1のとおりである。調査項目は、経営概要、雇用状況、今後の事業方針、農林大学校卒業生の雇用状況、専門職大学制度の認知度の5項目である。

調査対象者は、ビジネス経営体を中心とした農業法人 390 法人及び認定林業事業体 61 事業体である。調査票は、調査対象者へ郵送にて直接送付し、同封した返信用封筒にて回答を依頼した。配布部数は451部で、回収数177部、有効回答数は166部であった。

表1 アンケート調査概要

調査名	農林業法人の採用意識に関するアンケート調査
調査項目	経営概要：経営作目、従事者数、売上高、資本金 雇用状況：平成 27～29 年の採用状況、採用時の重視点、雇用の不足感、求人 の応募状況 今後の事業方針：事業拡大意向、採用方針、採用したい人材 農林大学校卒業生の雇用状況：平成 27～29 年の農林大学校卒業生の採用状 況及び今後の採用意向、農林大学校卒業生に求める知識・能力・技能 専門職大学の認知度
調査対象者	農業法人 390 法人 認定林業事業体等 61 事業体
調査方法	郵送調査 ・調査対象者に調査票を直接送付し、郵送にて回収。
回収状況	配布部数 451 部 回収数 177 部 (39.2%) 有効回答数 166 部 (93.8%)
調査時期	平成 29 年 6～7 月

## 2 経営概要

### (1) 経営作目

回答者の主な経営作目は、図2-1のとおりである。回答の多かった経営作目は、茶の25.3%（42経営体）、林業等（木材加工含む）の21.7%（36事業体）、野菜の19.9%（33経営体）であった。

### (2) 平成28年度売上高

平成28年度売上高の分布をみると、「5千万超～1億円まで」の層が多くなった（図2-2）。

経営作目別の中央値では、「酪農・肉牛」（31,500万円）、「林業等」（20,000万円）、「養鶏」（14,500万円）、「養豚」（14,000万円）の順に多くなった（表2-1）。

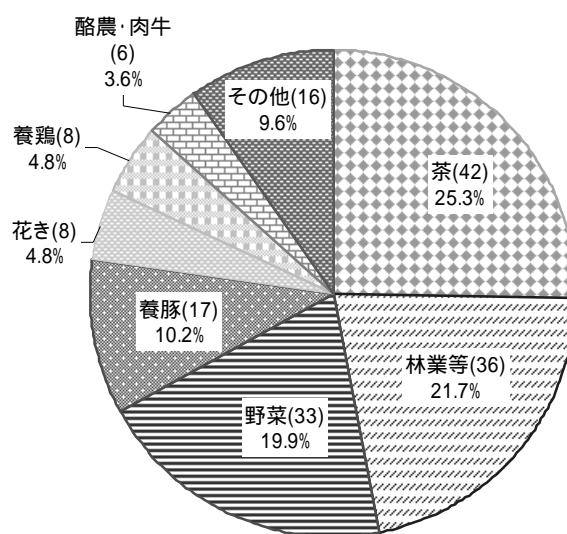


図2-1 主な経営作目等(n=166)  
(括弧内の数字は回答数)



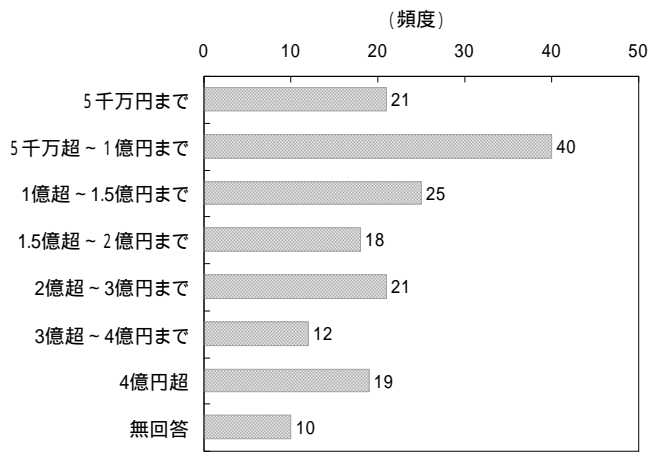


図2-2 平成28年度の売上高の分布(N=166)

表2-1 経営作目別の売上高の中央値

経営作目	回答数	(万円)
茶	40	10,647
林業等	33	20,000
野菜	31	11,000
養豚	16	14,000
花き	8	12,897
養鶏	7	14,500
酪農・肉牛	6	31,500
その他	15	7,400
全体	156	14,100

### (3) 役員数及び従業員数

役員及び従業員数の分布は左側に偏った分布形になった(図2-3～2-6)。また、中央値及び平均値を見ると、役員数の中央値は3.0人/法人(平均値4.4人/法人)、従業員数の中央値は11.0人/法人(平均値15.8人/法人)であった。従業員のうち、正規社員の中央値は4.0人/法人(平均値8.6人/法人)、正規社員以外は中央値3.0人/法人(平均値7.0人/法人)であった(表2-2)。

経営作目ごとにみると、役員数では、林業等の中央値の8.5人/法人が最も多かった。従業員数では、養鶏の中央値18.0人/法人が最も多く、林業等17.0人/法人、野菜16.0人/法人が続いた。正規社員を見ると、林業等の中央値14.5人/法人が最も多く、非正規社員では野菜11.5人/法人が最も多かった(図2-7)。また、売上金額別にみると、役員数、従業員数、従業員数のうち正規社員数は、売上金額が大きくなると多くなる傾向にあった(図2-8)。

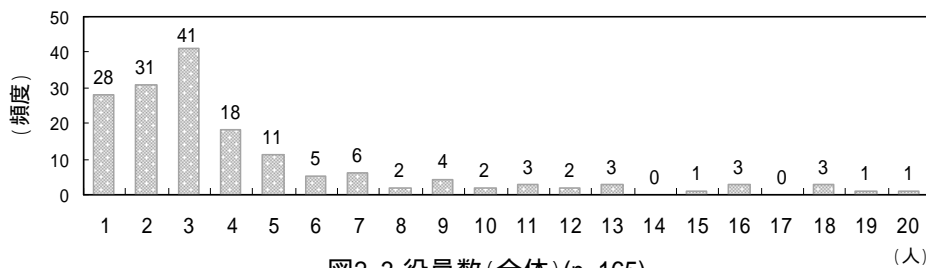


図2-3 役員数(全体)(n=165)

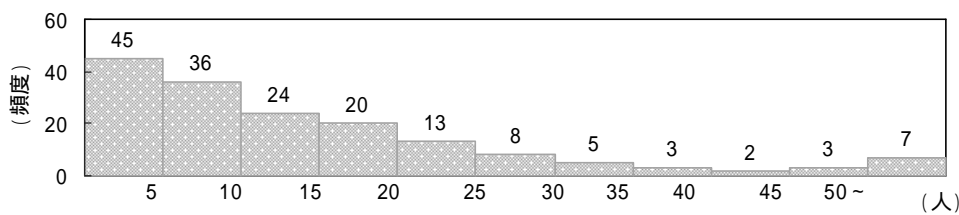


図2-4 従業員数(全体)(n=166)

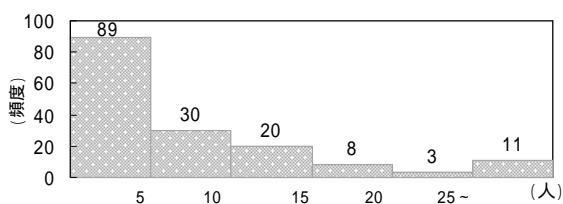


図2-5 従業員のうち正規社員(人)(n=161)

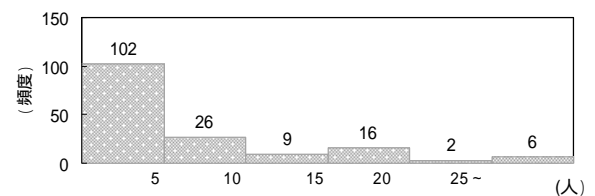


図2-6 従業員のうち正規社員以外(人)(n=161)

表2-1 役員数及び従業員数 (単位:人/法人)

項目	役員数	従業員数	(うち正規職員)	(うち正規職員以外)
平均値	4.4	15.8	8.6	7.0
中央値	3.0	11.0	4.0	3.0

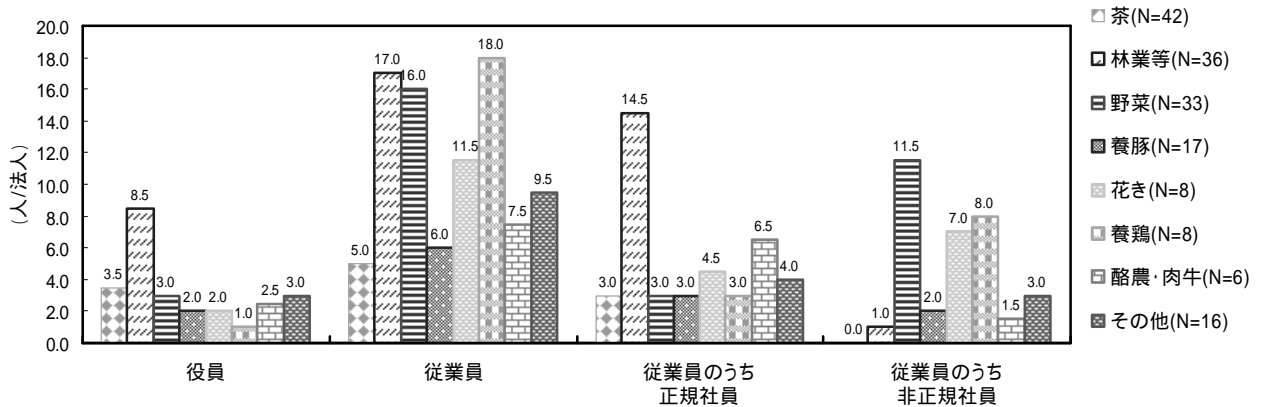


図2-7 1法人あたりの従事者数の中央値(経営作目別)

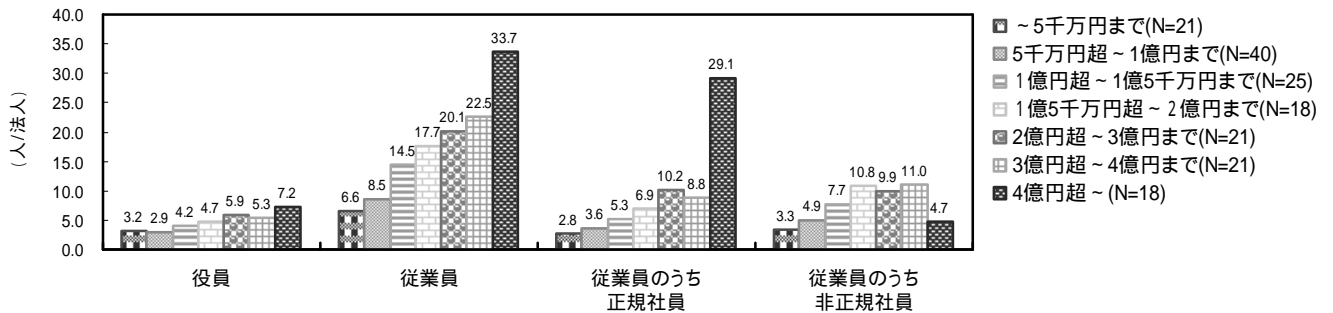


図1 法人あたりの平均従事者数(売上金額別)

#### (4) 資本金

資本金は、1千万円までが最も多くなった。

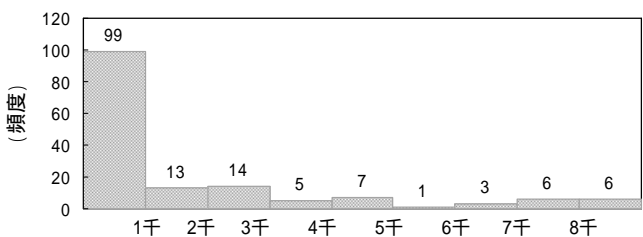


図2-9 資本金の頻度分布 (万円)

### 3 雇用状況

#### (1) 平成27~29年度の正規社員の雇用状況

平成27~29年の3年間の正規社員の雇用状況を見ると、雇用がない法人が72法人であった(図3-1)。また、学卒別等の人数で見ると、高校卒及びその他の雇用数が他の分類よりも多くなった(図3-2~3-7)。

次に、経営作目別に見ると、新卒者の正規雇用採用者数は「酪農・肉牛」が最も多く(図3-8)、新卒者以外は「養鶏」が最も多かった(図3-9)。

さらに、売上金額別みると、新卒者及び新卒者以外の正規雇用の採用は「4億円以上」が最も多くなった(図3-10、3-11)。

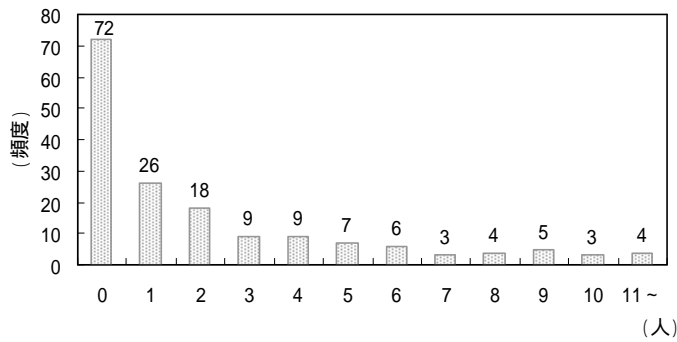


図3-1 平成27～29年の正規社員雇用状況(n=166)

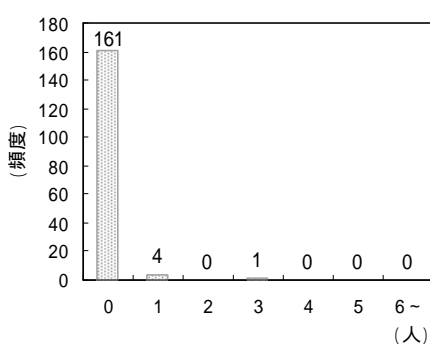


図3-2 正規社員(大学院卒)(n=166)

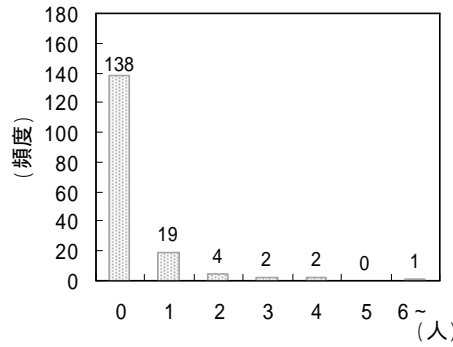


図3-3 正規社員(大学卒)(n=166)

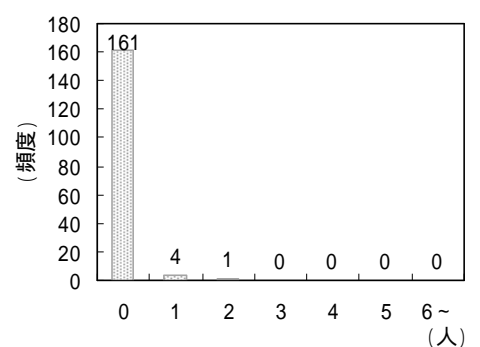


図3-4 正規社員(短期大学卒)(n=166)

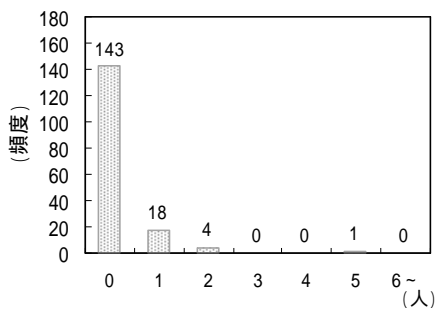


図3-5 正規社員(専修・専門学校卒)(n=166)

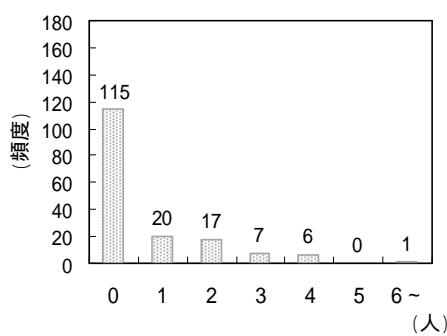


図3-6 正規社員(高校卒)(n=166)

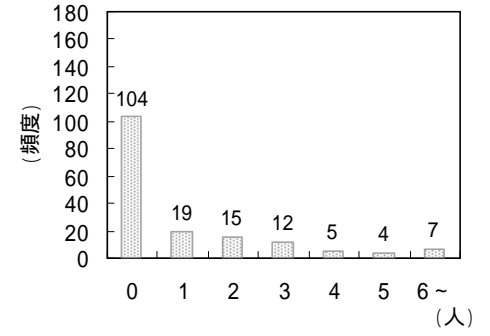


図3-7 正規社員(その他)(n=166)

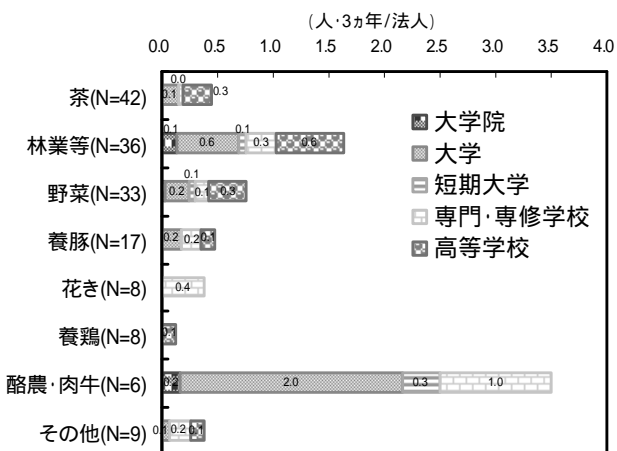


図3-8 1法人あたりの新卒者の平均採用人数(3年あたり)(経営作目別)

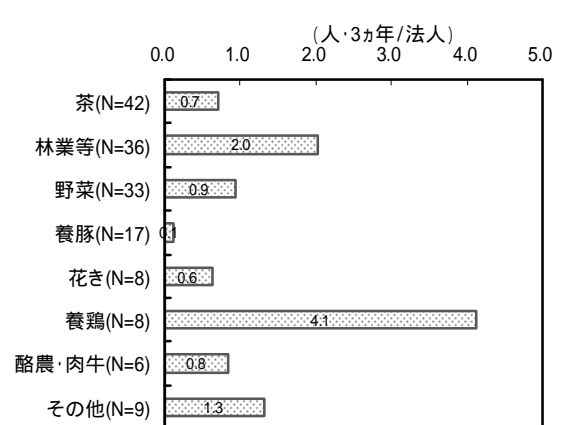


図3-9 1法人あたりの新卒者以外の平均採用人数(3年あたり)(経営作目別)

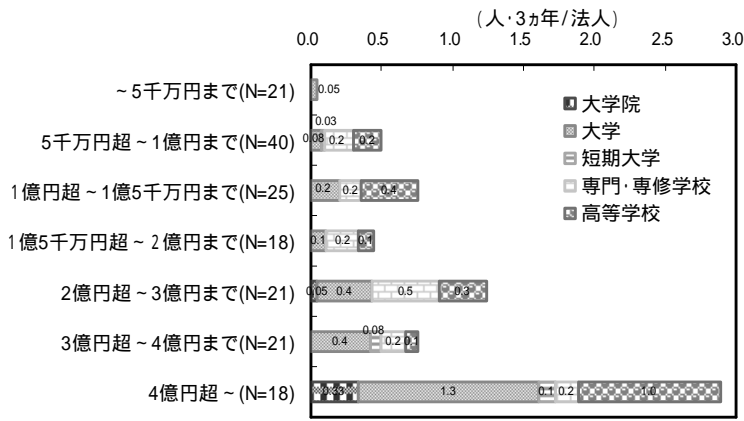


図3-10 1法人あたりの新卒者の平均採用人数(3ヵ年あたり) (売上金額別)

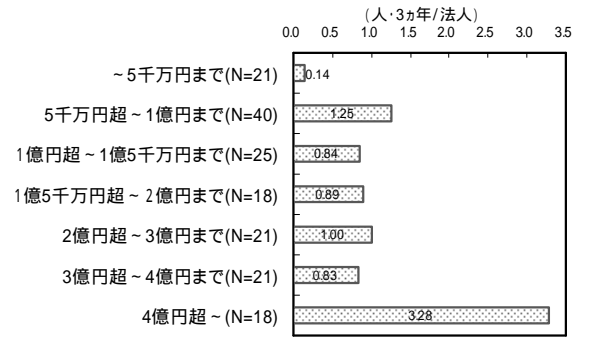


図3-11 1法人あたりの新卒者以外の平均採用人数(3ヵ年あたり) (売上金額別)

## (2) 正規社員雇用時に重視する点

正社員雇用時に重視する点は、「意欲・熱意」、「人物(人柄)」の順に回答が多く、2つの回答が大部分を占めた(図3-12)。

## (3) 雇用の不足感

雇用の不足感は、「不足感あり」が66.7%(回答数108)、「不足感なし」が33.3%(回答数54)であった(図3-13)。経営作目別では、林業等、野菜、養豚、その他で(図3-14)、売上金額別では「1億円超~1億5千万円まで」、「1億5千万円超~2億円まで」、「2億円超~3億円まで」で、不足感がやや高い傾向にあった(図3-15)。

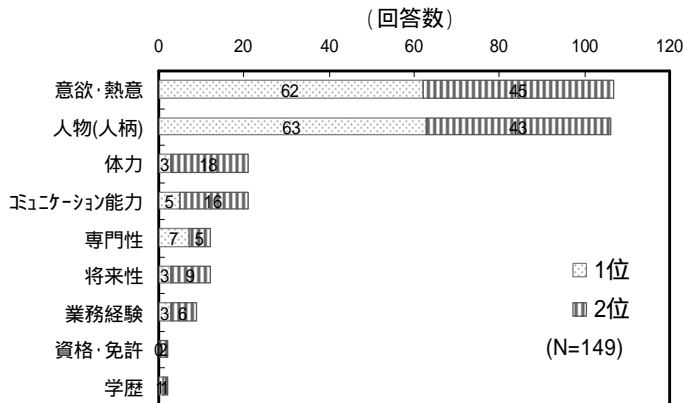


図3-12 正規社員採用時に重視する点

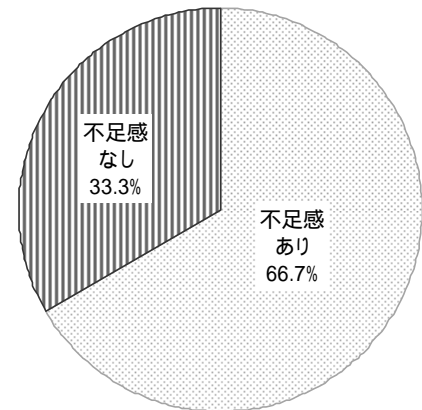


図3-13 雇用の不足感(n=162)

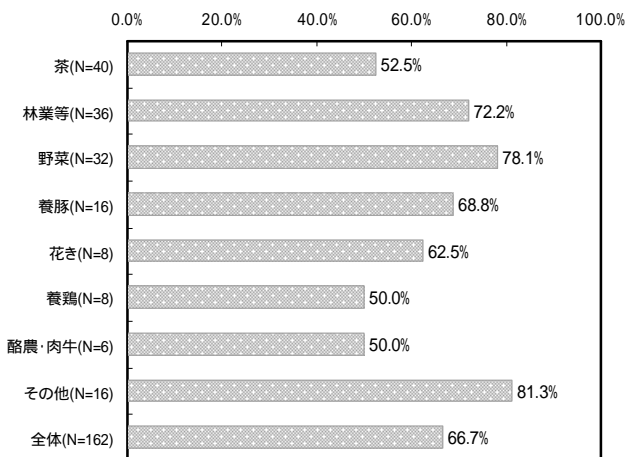


図3-14 雇用の不足感がある比率(経営作目別)

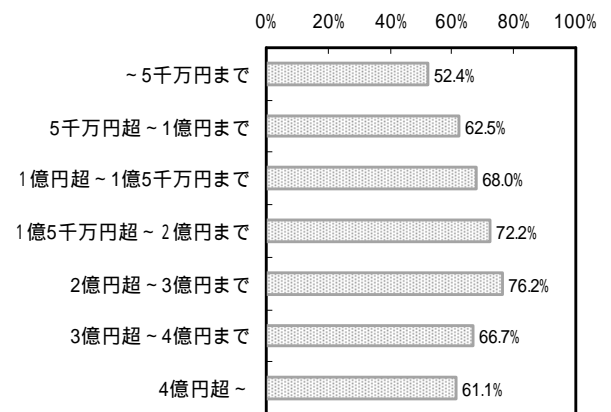


図3-15 雇用の不足感がある比率(売上額別)

また、不足する人数について、不足する正規社員の人数は1～3人(図3-16) 正規社員以外の人数は1～5人(図3-17)との回答が多かった。

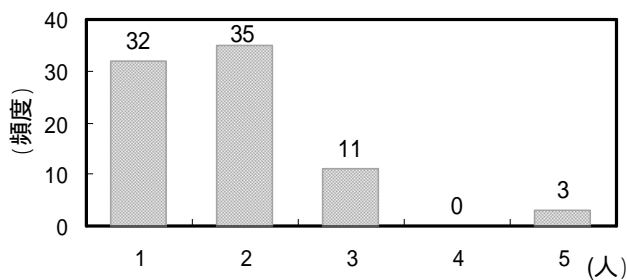


図3-16 不足している正規社員の人数(n=81)

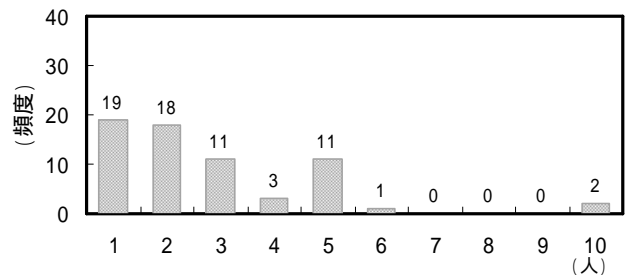


図3-17 不足している非正規社員の人数(n=65)

#### (4) 求人の応募状況

求人の応募状況を見ると、正規社員では、「募集しても応募がない」が21.1%(回答数23)、「応募はあるが応募者の資質が自社の求める基準に満たない」が26.6%(回答数29)、「応募はあるが求職者が求める処遇・労働条件と自社の掲示内容が折り合わない」が6.4%(回答数7)、「応募もあり採用もしているが、早期に退職してしまう」が5.5%(回答数6)、「人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない」が40.4%(回答数44)となった(図3-18)。

また、正規社員以外では「募集しても応募がない」が29.9%(回答数29)、「応募はあるが応募者の資質が自社の求める基準に満たない」が7.2%(回答数7)、「応募はあるが求職者が求める処遇・労働条件と自社の掲示内容が折り合わない」が9.3%(回答数9)、「応募もあり採用もしているが、早期に退職してしまう」が7.2%(回答数7)、「人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない」が46.4%(回答数45)となった(図3-19)。

正規社員及び非正規社員ともに、「募集しても応募がない」と「人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない」の回答が多くなった。

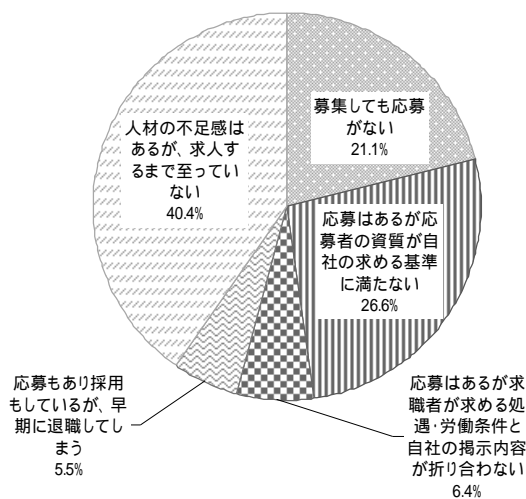


図3-18 求人の応募状況(正社員)(n=108)

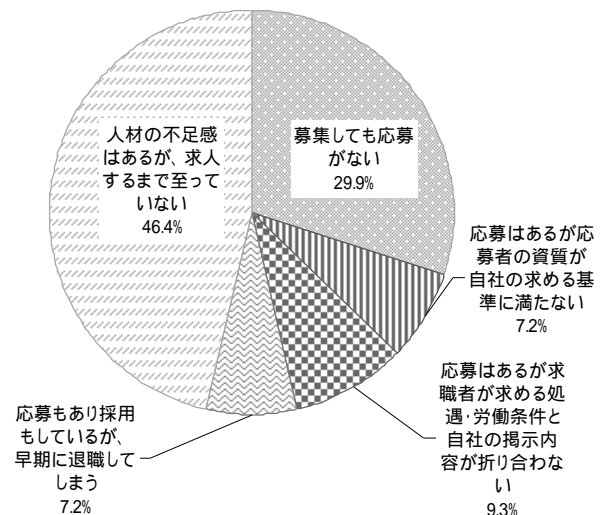


図3-19 求人の応募状況(正社員以外)(n=97)

## 4 今後の事業方針

### (1) 今後の事業の拡大や強化の方針

今後の事業の拡大・強化について、「考えている」が77.9%(回答数127)、「考えていない」が22.1%(回答数36)であり、8割近くが事業の強化・拡大を考えていた(図4-1)。経営作目別で見ると、林業等、野菜、酪農・肉牛で強化・拡大意向が高かった(図4-2)。また、売上金額別で見ると、「～5千万円まで」の層は強化・拡大意向が低かった(図4-3)。さらに、拡大・強化する部門は、「生産・販売・現場部門」、「販売部門」、「加工部門」、「管理部門」の順に多くなった(図4-4)。経営作

目別で見ると、「生産・販売・現場部門」の強化・拡大意向が高いのは、茶、野菜、花き、酪農・肉牛、その他、「加工部門」の強化・拡大意向が高いのは茶及び養鶏、「販売部門」の拡大意向が高いのは養鶏、その他、「管理部門」は花き及び酪農・肉牛であった（図4-5）

さらに、売上金額別にみると、生産部門及び販売部門の強化・拡大意向は全体的に高く、また管理部門は売上金額が高くなるにつれて、強化・拡大意向が高くなる傾向が見られた（図4-6）

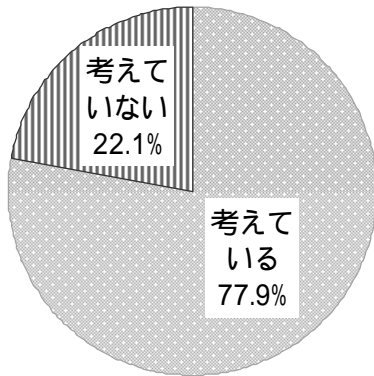


図4-1 今後の事業強化・拡大傾向(n=163)

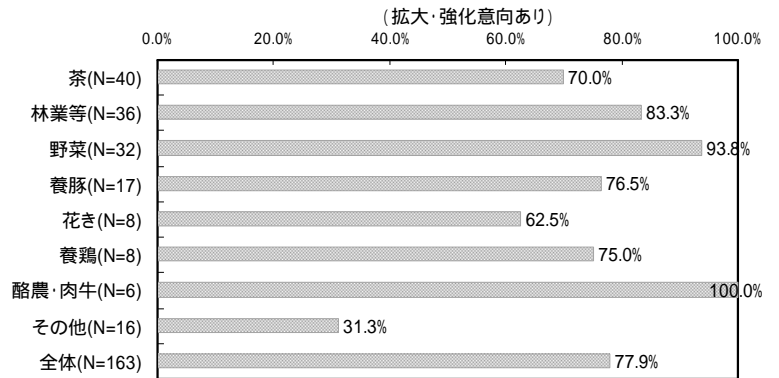


図4-2 事業の拡大意向(経営作目別)

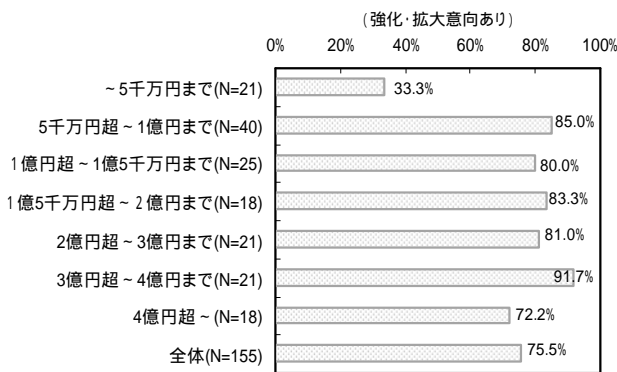


図4-3 今後の事業の強化・拡大意向(売上規模別)

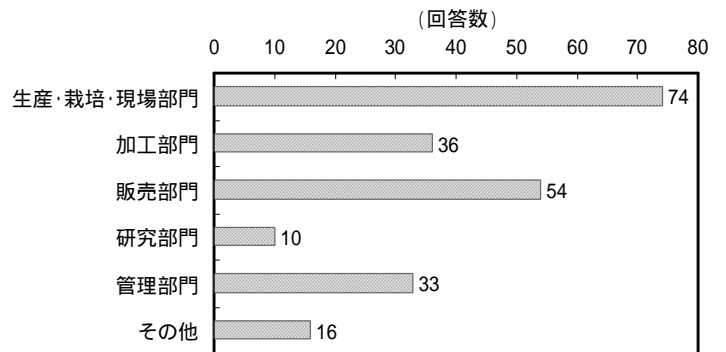


図4-4 強化・拡大する事業部門(複数回答、n=126)

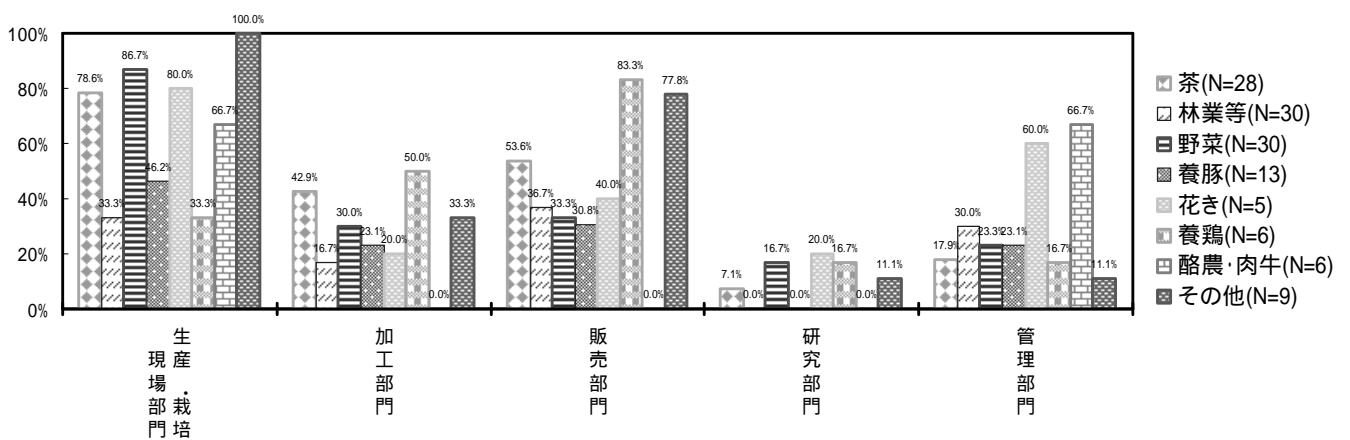


図4-5 強化・拡大したい部門(複数回答、経営作目別)

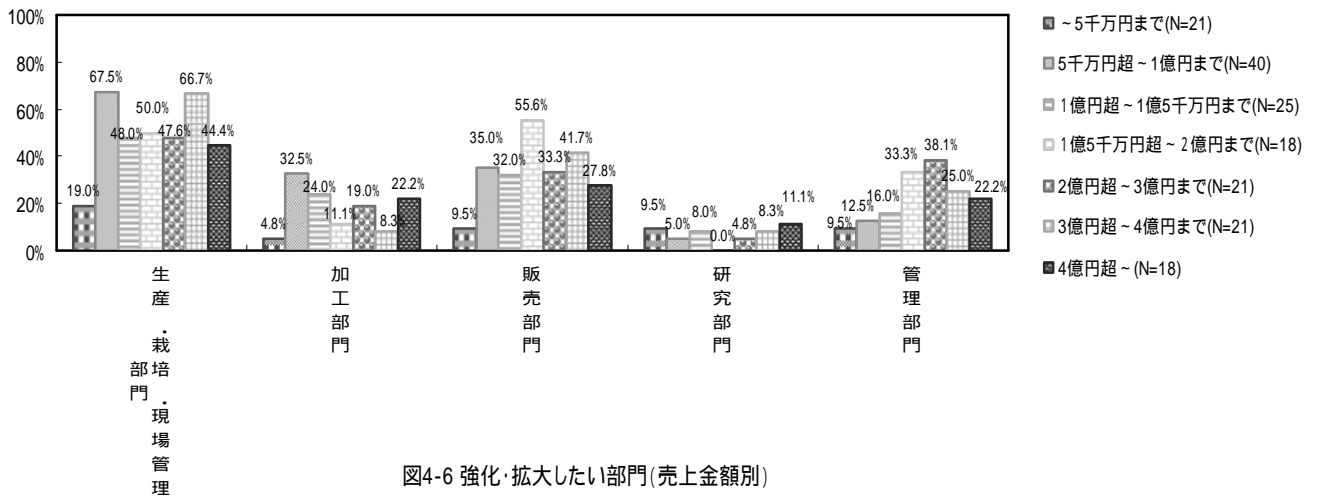


図4-6 強化・拡大したい部門(売上金額別)

### (2) 今後の採用方針

今後の採用方針は、正規社員は「現状より増やす」が53%（回答数83）、「現状どおり」が28%（回答数45）、「現状より減らす」が1%（回答数1）、「採用予定なし」が18%（回答数29）となった。また、非正規社員は「現状より増やす」が48%（回答数76）、「現状どおり」が25%（回答数40）、「現状より減らす」が2%（回答数3）、「採用予定なし」が25%（回答数39）となった。正規社員及び非正規社員ともに、半数近くが現状よりも採用を増やす方針であった。

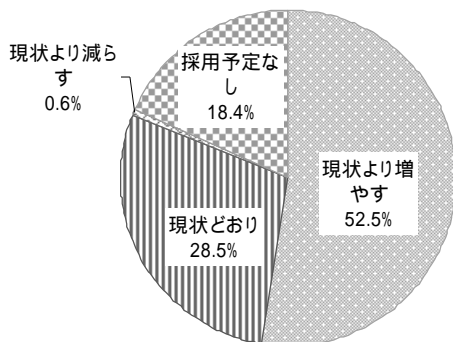


図4-7 今後の採用方針(正規社員)(n=158)

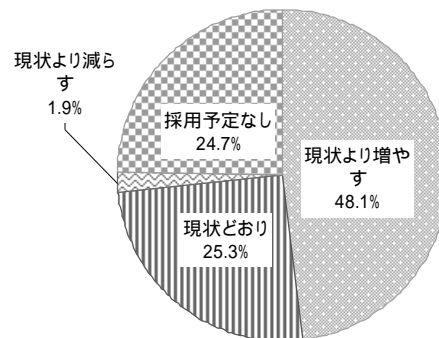


図4-8 今後の採用方針(非正規社員)(n=158)

### (3) 今後採用したい人材

今後採用したい人材は、「圃場・現場作業員」、「圃場・現場管理責任者」の回答数が特に多かった。

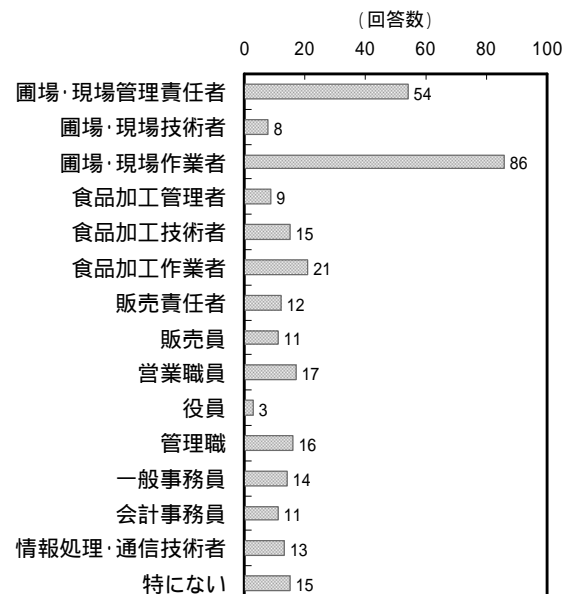


図4-9 採用したい人材(複数回答、n=155)

## 5 農林大学校卒業生の雇用状況

### (1) 平成27～29年度までの3年間の雇用状況と評価

農林大学校卒業生の平成27～29年度の3年間の採用状況をみると、養成部卒業生を「1名採用」は11.4%（回答数19）、「2名採用」は2.4%（回答数4）であった（図5-1）。また、研究部卒業生は、「1名採用」が0.6%（回答数1）、「2名採用」が0.6%（回答数1）であった（図5-2）。

その評価をみると、養成部卒業生では、「とても満足」が43.5%（回答数10）、「ある程度満足」が39.1%（回答数10）であり、2つの回答をあわせた82.6%が満足していた。また、「どちらともいえない」が4.3%（回答数1）、「あまり満足でない」が8.7%（回答数2）、「まったく満足していない」が4.3%（回答数1）であった（図5-3）。なお、研究部卒業生の評価は、「とても満足」の回答数が1、「ある程度満足」の回答数が1であった。

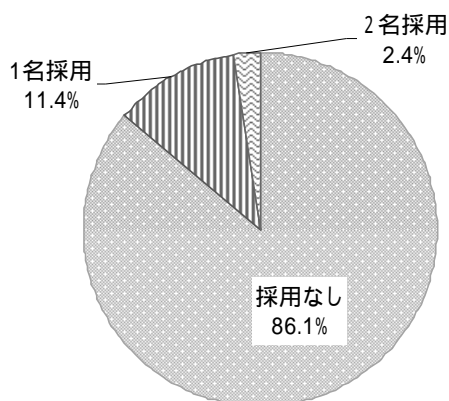


図5-1 平成27～29年の養成部卒業生の採用状況(n=166)

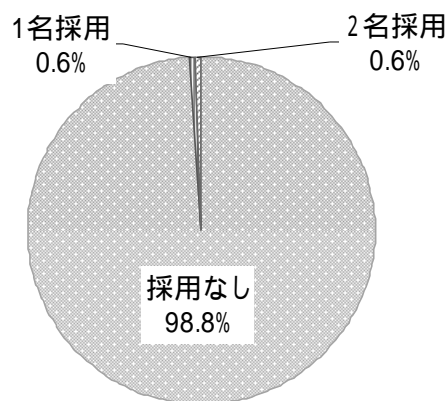


図5-2 平成27～29年の研究部卒業生の採用状況(n=162)

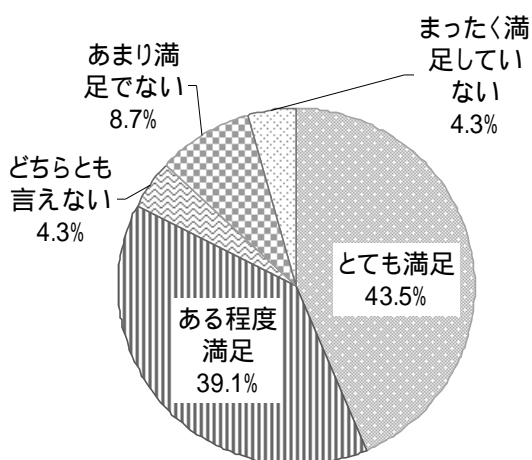


図5-3 養成部卒業生の評価(n=22)

### (2) 農林大学校卒業生の採用意向

養成部卒業生の採用意向について、「採用したい」が27.4%（回答数40）、「能力次第で採用したい」が31.5%（回答数46）、「採用しない」が13.7%（回答数20）、「分からない」が27.4%（回答数40）であり、「採用したい」と「能力次第で採用したい」を合わせた58.9%に採用意向があった。

一方、研究部卒業生の採用意向は、「採用したい」が21.9%（回答数32）、「能力次第で採用したい」が24.0%（回答数35）、「採用しない」が13.0%（回答数19）、「分からない」が41.1%（回答数60）であり、「採用したい」と「能力次第で採用したい」を合わせた45.9%に採用意向がみられた。採用意向は、養成部卒業生がやや高かった。



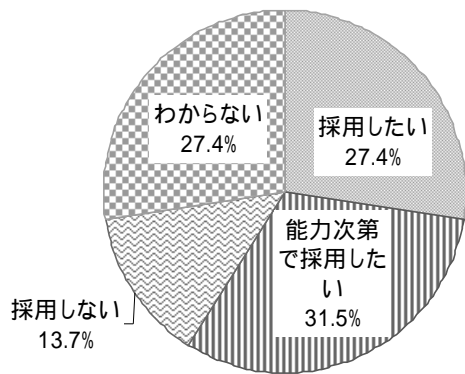


図5-4 養成部卒業生の採用意向(n=146)

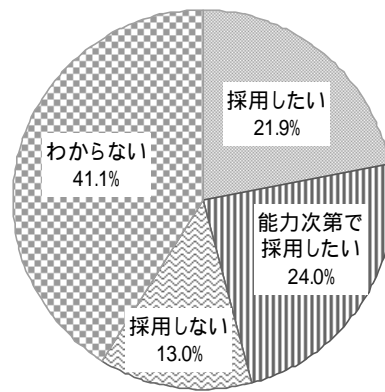


図5-5 研究部卒業生の採用意向(n=146)

### (3) 求める知識・能力・技術

農林大学校卒業生に求める知識・能力・技術は、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「スマート農業」、「農業経営の知識」、「食品安全の知識」の回答数が多かった(図5-6、5-7)。また、次の式でスコアを計算した結果(表5-1) 図5-6及び5-7の結果と同様となった。

#### <スコア計算式>

$$\text{スコア} = (\text{1位の回答数} \times 3) + (\text{2位の回答数} \times 2) + (\text{3位の回答数} \times 1)$$

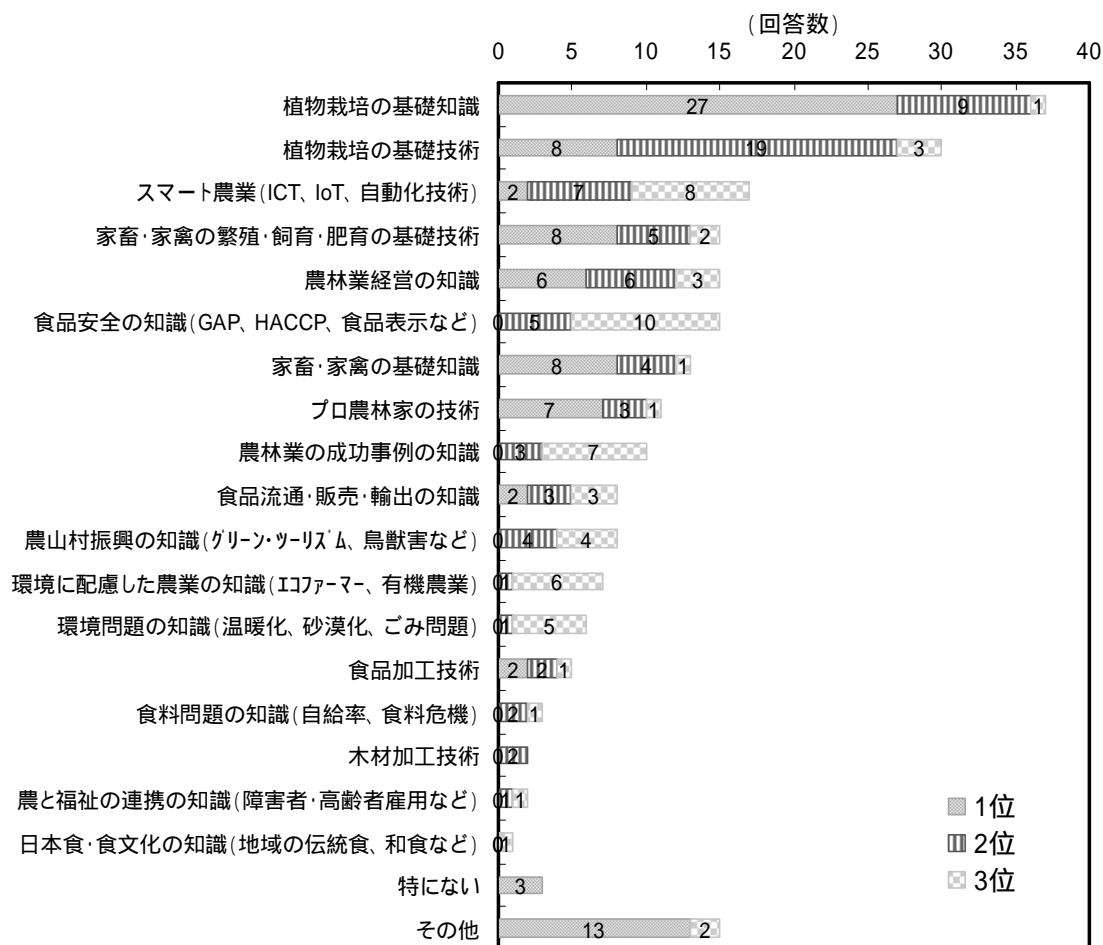


図5-6 養成部卒業生に求める知識・能力・技術(1～3位を選択、n=85)

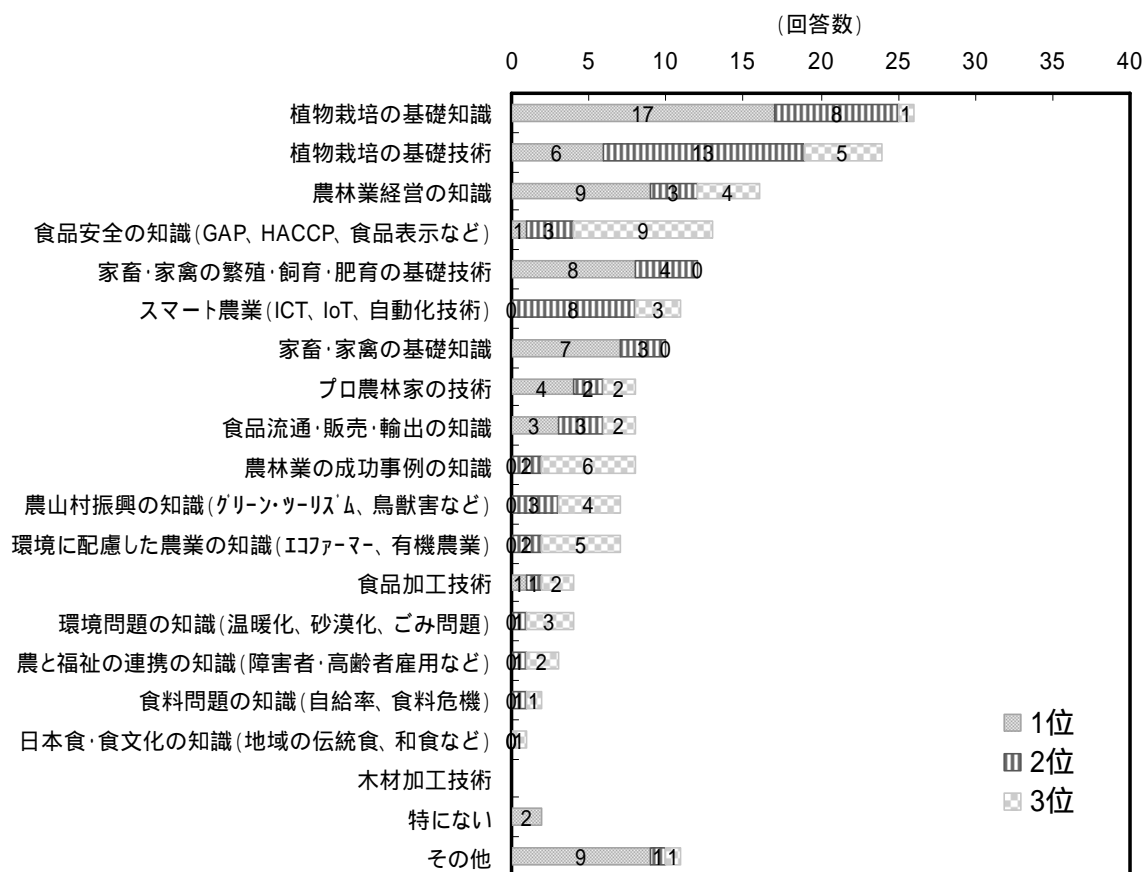


図5-7 研究部卒業生に求める知識・能力・技術(1～3位選択、n=66)

表5-1 農林大学校卒業生に求める知識・技能のスコア

項目	スコア	
	養成部	研究部
植物栽培の基礎知識	100	68
植物栽培の基礎技術	65	49
家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	36	32
家畜・家禽の基礎知識	33	27
農林業経営の知識	33	37
プロ農林家の技術	28	18
スマート農業( ICT、IoT、自動化技術)	28	19
食品安全の知識( GAP、HACCP、食品表示など)	20	18
食品流通・販売・輸出の知識	15	17
農林業の成功事例の知識	13	10
農山村振興の知識(グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)	12	10
食品加工技術	11	7
環境に配慮した農業の知識(エコファーマー、有機農業)	7	9
環境問題の知識(温暖化、砂漠化、ごみ問題)	7	5
食料問題の知識(自給率、食料危機)	5	3
木材加工技術	4	0
農と福祉の連携の知識(障害者・高齢者雇用など)	3	4
日本食・食文化の知識(地域の伝統食、和食など)	1	1

スコア = (1位の回答数 × 3) + (2位の回答数 × 2) + (3位の回答数 × 1)

## 6 専門職大学の認知度

新たに創設された大学制度「専門職大学」を「知っている」と回答した割合は31%であった(図6-1)。また、農林大学校が専門職大学への移行を検討していること「知っている」の割合は29%であった(図6-2)。

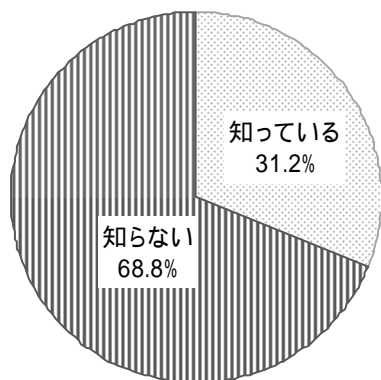


図6-1 専門職大学の認知度(n=150)

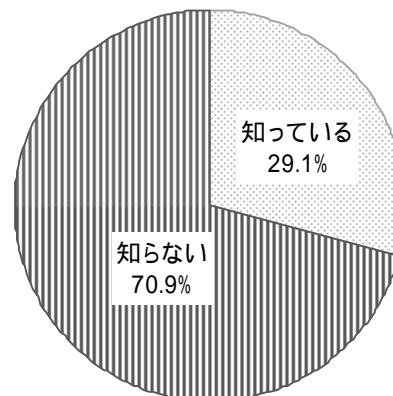


図6-2 専門職大学移行への認知度(n=147)

## 7 まとめ

- ・ 直近3年間の雇用状況を見ると、正規社員の雇用数は全体的に少ないが、経営作目では酪農・肉牛、売上金額別では4億円以上の雇用数は、他と比較して多かった。
- ・ 雇用の不足感は7割近くの農林業法人が感じているが、求人するまでに至っていない農林業法人は4割強である。
- ・ 事業の強化・拡大意向を見ると、農林業法人の8割近くが強化・拡大を考えている。特に生産・栽培・現場部門への強化・拡大意向が高く、圃場・現場管理者及び作業者を雇用したいと考えている農林業法人は多い。また、販売部門、加工部門、管理部門の強化・拡大意向も少なくなかった。
- ・ 管理部門は、売上金額が高いほど強化・拡大したいと考えている農林業法人が増加する傾向にあり、今後、管理部門の人材が必要になると推察される。
- ・ 直近3年間の農林大学校卒業生の雇用数は少ない。しかし、今後採用したい意向を示している農林業法人は、2年制の養成部では約6割、4年制の研究部では約5割弱であり、どちらのニーズもあるが、2年制のニーズの方がやや高かった。
- ・ 農林業法人が農林大学校卒業生に求める知識・技術は、生産に必要な基礎知識・技術に関する回答が多かった。また、農林業経営の知識やプロの技術、スマート農業、食品安全の知識をあげる農林業法人も多かった。
- ・ 現状の農林業法人が最も必要とする人材は、栽培技術・知識を持った生産・栽培・現場部門の人材であるが、法人の規模が拡大するにつれ、管理部門の人材の需要が増すことが示唆された。

## 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査

- 回答の記入上のお願い -

- ・ 回答は、あてはまる選択肢の番号に を付けてください。また、別に記入欄があるものについては、番号または字句を回答欄に記入してください。
- ・ なお、あらかじめ添付のリーフレットを御覧いただいた後、回答願います。

調査実施機関 静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課担い手育成班

(問合せ先) 担当：竹内、菊池、工藤 TEL . 054-221-2754 FAX . 054-221-3688

### 貴法人について伺います。

問1 貴法人の主な作目(飼育畜種)と栽培面積(飼育頭(羽)数)について、お答えください。  
(該当する作目(飼育畜種)の欄に栽培面積(飼育頭(羽)数)を記入)

作目 (飼育畜種)	茶	野菜	花き	水稲	果樹	林業
栽培面積 (飼育頭(羽)数)	ha	ha	ha	ha	ha	ha

作目 (飼育畜種)	養豚	養鶏	酪農	肉牛	その他 ( )
栽培面積 (飼育頭(羽)数)	頭	羽	頭	頭	

問2 役員数及び従業員数について、お答えください。(数字を記入)

役員	従業員		
	(うち正社員(正規職員))		(うちパート)
人	人	人	

問3 売上高及び資本金について、お答えください。(数字を記入)

平成 28 年度売上高	円	資本金	円
-------------	---	-----	---

### 雇用状況について伺います。

問4 平成 27～29 年度の正社員の採用人数について、お答えください。  
(該当する欄に数字を記入)

年度	新 卒					その他 ( )
	大学院	大学	短期 大学	専門学校 専修学校 (農大含む)	高等 学校	
平成 27 年度	人	人	人	人	人	人
平成 28 年度	人	人	人	人	人	人
平成 29 年度	人	人	人	人	人	人

問5 正社員の採用時に重視する点について、上位2つまで選び番号でお答えください。

1. 専門性	2. 人物(人柄)	3. 体力
4. 意欲・熱意	5. コミュニケーション能力	6. 業務経験
7. 将来性	8. 資格・免許	9. 学歴
10. その他( )		
<回答欄>	1位	2位

問6 雇用の不足感について、お答えください。また、不足感がある場合は不足している人数をお答えください。

(1つに )

(不足感がある場合は人数を記入)

1. 不足感がある
2. 不足感はない

正社員	人程度
正社員以外(パート等)	人程度

問7 求人の応募状況について、正社員と正社員以外に分けて、お答えください。(番号を記入)

1. 募集しても応募がない			
2. 応募はあるが応募者の資質が自社の求める基準に満たない			
3. 応募はあるが求職者が求める処遇・労働条件と自社の掲示内容が折り合わない			
4. 応募もあり採用もしているが、早期に退職してしまう			
5. 人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない			
<回答欄>	正社員		正社員以外

今後の事業方針について伺います。

問8 今後、事業の拡大や強化を考えているか、お答えください。また、考えている場合は、該当部門をすべてお答えください。

(1つに )

<部門> (該当する部門すべてに )

1. 考えている
2. 考えていない

栽培部門	加工部門	販売部門
研究部門	管理部門	その他( )

問9 今後の採用方針について、お答えください。(それぞれ1つに )

正社員等	1. 現状より増やす	2. 現状どおり	3. 現状より減らす	4. 採用予定なし
正社員以外	1. 現状より増やす	2. 現状どおり	3. 現状より減らす	4. 採用予定なし

問10 今後、採用したい人材について、お答えください。(該当するものすべてに )

1. 圃場管理責任者	5. 食品加工業者	9. 役員	13. 情報処理・通信技術者
2. 圃場作業員	6. 販売責任者	10. 管理職	14. 特になし
3. 食品加工管理者	7. 販売員	11. 一般事務員	15. その他
4. 食品加工技術者	8. 営業職員	12. 会計事務員	( )

県立農林大学校卒業生の雇用状況について伺います。

問 11 過去3年間（平成27～29年度）の農林大学校卒業生の雇用人数を、養成部と研究部の別にお答えください。また、雇用実績がある場合はそれぞれの評価をお答えください。

課程	養成部	研究部
人数	人	人
評価 (それぞれ 1つに )	1. とても満足 2. ある程度満足 3. どちらとも言えない 4. あまり満足でない 5. まったく満足していない	1. とても満足 2. ある程度満足 3. どちらとも言えない 4. あまり満足でない 5. まったく満足していない

問 12 卒業生のうち、今後の養成部卒業生の採用意向についてお答えください。(1つに )

	養成部
意向	1. 採用したい 問 13 へ
	2. 能力次第で採用したい 問 13 へ
	3. 採用しない 問 14 へ
	4. わからない 問 15 へ

< 「採用したい」、「能力次第で採用したい」を回答された方に伺います。 >

問 13 養成部卒業生に求める知識・能力・技術について、上位3つまで選び番号でお答えください。

1. 植物栽培の基礎知識	11. 食品安全の知識 (GAP、HACCP、食品表示など)		
2. 植物栽培の基礎技術	12. 日本食・食文化の知識 (地域の伝統食、和食など)		
3. 家畜・家禽の基礎知識	13. 農山村振興の知識 (グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)		
4. 家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	14. 農と福祉の連携の知識 (障害者・高齢者雇用など)		
5. プロ農林家の技術	15. 環境に配慮した農業の知識 (エコファーマー、有機農業)		
6. スマート農業 (ICT、IoT、自動化技術)	16. 環境問題の知識 (温暖化、砂漠化、ごみ問題)		
7. 農林業経営の知識	17. 食料問題の知識 (自給率、食料危機)		
8. 食品加工技術	18. 農林業の成功事例の知識		
9. 木材加工技術	19. 特になし		
10. 食品流通・販売・輸出の知識	20. その他 ( )		
回答欄	1 位	2 位	3 位

問 15 へ

< 「採用しない」を選択された方に伺います >

問 14 養成部卒業生を採用しない理由について、お答えください。

(自由記入)
--------

問 15 へ

問 15 卒業生のうち、今後の研究部卒業生の採用意向についてお答えください。(1つに )

	養成部	
意向	1. 採用したい	問 16 へ
	2. 能力次第で採用したい	問 16 へ
	3. 採用しない	問 17 へ
	4. わからない	問 18 へ

< 「採用したい」、「能力次第で採用したい」を回答された方に伺います。 >

問 16 研究部卒業生に求める能力・技術について、上位3つまで選び番号でお答えください。

1. 植物栽培の基礎知識	11. 食品安全の知識 (GAP、HACCP、食品表示など)		
2. 植物栽培の基礎技術	12. 日本食・食文化の知識 (地域の伝統食、和食など)		
3. 家畜・家禽の基礎知識	13. 農山村振興の知識 (グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)		
4. 家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	14. 農と福祉の連携の知識 (障害者・高齢者雇用など)		
5. プロ農林家の技術	15. 環境に配慮した農業の知識 (エコファーマー、有機農業)		
6. スマート農業 (ICT、IoT、自動化技術)	16. 環境問題の知識 (温暖化、砂漠化、ごみ問題)		
7. 農林業経営の知識	17. 食料問題の知識 (自給率、食料危機)		
8. 食品加工技術	18. 農林業の成功事例の知識		
9. 木材加工技術	19. 特にない		
10. 食品流通・販売・輸出の知識	20. その他 ( )		
回答欄	1 位	2 位	3 位

問 18 へ

< 「採用しない」を選択された方に伺います >

問 17 研究部卒業生を採用しない理由について、お答えください。

(自由記入)
--------

問 18 へ

**専門職大学の制度についてお答えください。**

問 18 新たな教育制度「専門職大学 (専門職短期大学)」が創設されたことを知っていますか。

(1つに )

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 19 静岡県では、農林大学校を専門職大学へ移行することを検討しています。このことを知っていますか。(1つに )

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

**差し支えなければ、法人名と連絡先をご記入ください。**

法人名	
連絡先 (電話番号、メールアドレス等)	

~ ご協力をありがとうございました ~